

ハッピーライフ

～今を楽しむ～



ジャーナル学科に恋をして

今はどこの市町村でも行っている、シニアの生涯学習ですが、我が狭山市には珍しい学科が存在します。日本で唯一の学科ではないかと、思われます。

それは、**ジャーナル学科**と言い、学習の目標は、「**住みやすいまちづくりに貢献する**」です。「**ジャーナリズムとは、コミュニケーションである**」を掲げ、日々研鑽を積んできました。

カリキュラムの内容は、6項目からなり、①考える(企画) ②調べる(取材) ③記録する(メモ、写真) ④表す(執筆) ⑤構成する(編集) ⑥提供(発行)することです。これらを学ぶことで、認知機能の低下を遅らせることが出来るでしょう。

一年間学んできましたが、だんだんこの学科が好きになり、恋に発展するのかなと、大いに期待しています。今まで「インタビュー集・健康冊子・達人シリーズ」など多岐にわたり制作してきましたが、修了時期が近づいてきました。

そこで、修了制作として、課題自由の冊子を作成することになり、今まで学んだことを生かして、趣味や活動の中から、伝えたいことを、**ラブレターを書くつもり**で、文章にしてみました。

さて、この内容で、**楽しんで面白くなじぎ**、読者の皆様に感じていただければ、ありがたく思います。



ハッピーライフ〜今を楽しむ

目次

ジャーナル学科に恋をして	2
文学と歴史を求めて	権田 恒夫 3
孫との暑い熱い夏休み	藤橋 敏子 6
青春18きっぷ	富澤 邦子 8
五十の手習い ひいふうみい	すだたまこ 10
新旧 動と静を楽しむ	大竹征一郎 12
ジャーナル学科制作作品	川柳特集 14
恋のゆくえ	15

文学と歴史を求めて

権田 恒夫

都から見ると、辺境の地と考えられた狭山市域ですが、文学や歴史の舞台にも登場しています。

入間路の 大家が原

武蔵国と上野国の国府を結ぶ官道入間路（いりまじ）が、狭山市内を通り抜けていた。

大伴家持編纂の『万葉集』の巻十四に東歌「入間路の 大家が原の いわゐる蔓 引かばぬるぬる 吾にな絶えそね」が載せられている。「いわゐる蔓」はすべりひゆ、じゅんさい、みずはこべで、「ぬるぬる」は「弛んで解けること」で、「入間道の大家が原のいわる蔓のようにわたしから離れないでおくれ」の意である。ちなみに、「大家が原」は越生町大谷やふじみ野市大家と推定されている。朝廷の力が衰えると、入間路は寂れたが、鎌倉幕府が開かれると、「鎌倉街道上つ道」として整備された。

征夷大將軍から下知を受けると、御家人が「いざ鎌倉」と馳せ参じた道である。後北条時代になると、伝馬制により、沿道の村に伝馬役が課せられた。伝馬は「駅伝」とも言わ

れ、駅伝競走の語源となっている。慶長八年（一六〇三）、徳川家康により中山道が整備されると、鎌倉道は村々を結ぶ里道となった。



万葉歌碑 市役所裏庭

東路にありといふなる

入曾地区の水野に「逃水」と言う地名が残っている。ここは、歌枕の地として、京都の貴族たちにも知られていた。逃げ水とは、かすみが立ち込めた時、旅人が水を求め近づく、泉が消える現象である。

延慶三年（一二三〇）、源俊頼は『夫木和歌集』で「東路に ありといふなる 逃水の にげのがれても 世に過ぐすかな」と詠んでいる。

ゐは堀兼の井

入曾駅から少し歩くと、大きな蟻地獄のような凹地（直径二十六メートル・深さ十一メートル）がある。

武蔵野に掘られた十四か所の「堀兼の井」の一つである。昭和四十五年

（一九七〇）に発掘され、埼玉県指定史跡になった。東京都羽村市では、「まいまいず井戸」と、入曾地区では「七曲の井」と呼び習わし、堀兼井を「ほりがたい」と読んでいる。

清少納言は『枕草子』百五十四段で紹介する。「井は堀兼の井。走井は逢坂なるがをかしき。山の井のさしも浅きためしになりはじめけん」。

歌枕の地として、多くの和歌に詠まれている。三十六歌仙の一人伊勢は「いかでもと 思ふ心は 堀兼の井よりも猶ぞ 深さまされる」と、藤原俊成は『千載和歌集』で「むさし野の 堀金の井も あるものを嬉しく 水の近付きにけり」と、西行は「汲みて知る 人もありけん 自ずから 堀兼の井の 底の心を」と、そして、地元国学者田口保明は「人は知らじ ほりもつくさで 堀兼の井よりも深き 思ひありせば」と詠じている。

正応三年（一二九〇）、出家した後深草院二条は、関東に歌枕の旅をした。浅草観音に詣でた後、入間郡に足を伸ばした。そして、堀兼の井を見て、「堀兼の井は跡かたもなく、ただ枯れたる木の一つ残りたるばかりなり」と嘆いている。『とわずかり』

文明十八年（一四八六）には、「堀兼の井、見にまかりて詠める。今は

高井戸と言ふ」と、聖護院門跡興准后（どうこうじゅごう）は『廻国雑記』に記し、「昔誰 心づくしの名を留めて 水なき野辺を 堀兼の井ぞ」と、歌を添えている。

堀兼地区では「日本武尊が東征の折、飲み水に苦しんでいた村人に掘らせた」と伝え、「堀兼の井」が、埼玉県指定旧跡になっている。



七曲の井 観音堂境内

死を悲しんだ大姫

ひと際目を引く大きなイチョウの傍らに、わずか十二年で生涯を終えた、木曾義仲の嫡子義高を祀った神社が鎮座している。

寿永二年（一一八三）、義仲は、源頼朝と仲違しそうになると、清水冠者義高を人質として差し出した。すると、頼朝は十一歳の義高を連れ、鎌倉に帰った。ちなみに、『平家物語』は、義高の名前を「義重」と記している。



清水八幡 本富士見橋付近

義高は頼朝の娘大姫と夫婦になり、仲睦まじく暮らしていた。しかし、両者が不仲になると生命を狙われ、鎌倉から逃げる途中、頼朝の由来によつて入間河原で殺された。元暦元年（一一八四）四月のことである。彼の死を悲しんだ大姫は、後を追うように短い一生を終えた。鎌倉幕府編纂の『吾妻鏡』に載る悲しい話である。その後、二人の菩提を慰めるため、北条政子は、八幡宮を建てた。

鎌倉街道沿いにある奥州道（おうじゅうどう）の五差路に、「影隠地蔵」が鎮座している。徳川幕府編纂の『新編武蔵風土記稿』は、「二尺余の木造地蔵菩薩が地蔵堂に祀られている。源義高が鎌倉から逃れ来た時、地蔵の背後に隠れ、危急を免れ、奥州まで落ち延びた」と述べている。

百発百中の妙技に

建久四年（一一九三）三月、源頼朝は那須野の巻狩りに出掛けた折、北入曾の「御狩場」で追鳥狩りを行った。二十一日、鎌倉を出発した頼朝一行は、二十五日、入間野で追鳥狩りを行った。その時、藤沢次郎清親は雉五羽と真鶴二十五羽を射落とし、妙技に感心した頼朝は清親を賞賛した。それから、この地を「御狩場」と呼ぶようになり、御狩場小学校の校章は三本の矢をかたどっている。江戸時代、堀兼村と水野村は尾張藩徳川家の御鷹場であったが、北入曾村は指定されていない。

所謂 柏原太郎是也

柏原に居館を構えた柏原太郎は、保元・平治の乱などに、畠山重忠の家来として、参陣している。「鶴越の逆落としての時、重忠は愛馬『三日月』を背負って下った」と、『源平盛衰記』に記述している。文治五年（一一八九）、奥州征伐の折、城壁崩しを任務として、重忠は先陣を務めた。「所謂、長野三郎重清・大串小次郎重親・本田次郎近常・榛沢六郎成清・柏原太郎等是也。出御の鎌倉勢一千騎也」と、『吾妻鏡』が記録している。五騎の一人として、太郎も付き従った。

元久元年（一二〇四）、主人の重忠

は二股川で非業の死を遂げるが、柏原太郎の消息は分からない。



城山稲荷大明神 城山砦内

武州入間河沈水の事

建暦二年（一一二二）、飛鳥井雅経に伴われ鴨長明は鎌倉に下向し、第三代将軍源実朝と対談している。その時、入間川の大洪水を知ったのでろう。

建保二年（一一二四）に著した仏教説話集『発心集』の「武州入間河沈水の事」に、その恐ろしさを鮮やかに著している。

しばらくの間、官主は泳いでいたが、一人になって流された。「もうこれ以上力が続かない。いよいよおぼれ死ぬのか」と、神仏に祈った、「なぜこんな目に合うのか」と

流されるうちに少し黒ずんだ所が見えたので、泳ぎ着くと、流れ残った

葦の末葉であった。「ここでしばらく体を休めよう」と安心していると、何か体に巻き付くではないか。驚いて探つて見ると、蛇の大きな群れであった。葦に取り付き、集まっていたのだ。

夢見ているようで、恐ろしくなり、偶然浅瀬にたどり着くと、片端から取っては投げ、取っては投げ、陸地にたどり着いた。

洪水から生還し得た、信心深い人物の数奇な説話である。

この記事を書いた二年後、随筆家鴨長明は京都で没した。

神靈矢口の渡し

足利尊氏の四男で、「入間川殿」と呼ばれた足利基氏（関東公方）は、文和二年（一一三三）から九年間、三万六千騎を率いて、曹洞宗徳林寺に在陣したと言う。

延文三年（一一三八）、多摩川の矢口の渡しで殺された新田義興（義貞の二男）は、入間川町で首実検された。すると、無念の最期を遂げた義興の怨霊の落雷により、三百余軒の人家や十か所の神社・寺院が焼失した。南北朝五十年間を記したが、『太平記』に載っている悲話である。

明和七年（一七七〇）福内鬼外（平賀源内）は、この事件を浄瑠璃『神靈矢口渡』に脚色、好評を得ている。

義貞の駒繫ぎ松

元弘三年（一一三三）五月八日、上州新田郡の生品神社で、新田義貞は百五十騎ほどで旗揚げした。

そして、利根川を渡り、武蔵国に入る。十日、笛吹峠を越え、入間川に至ると、二十万騎に膨れ上がった。十一日朝に入間川を押し渡る。十二日、所沢市北野の小手指ヶ原で幕府軍と激突するが、義貞軍は戦いに敗れ、「堀金（ほりかね）」に退いた。

ついで、十三日に久米川で、十五、十六日、分倍が原で勝利を得た。破竹の勢いで、二十二日に鎌倉に入り、執権、北条高時を自刃に追い込み、鎌倉幕府を滅亡させた。

狭山市駅近くの八幡神社境内には愛馬を繫ぎ、必勝を祈願した「駒繫ぎの松」が残され、曹洞宗徳林寺には新田義貞が滞陣したと言う物語が残されている。



徳林寺山門 図書館付近



駒繫ぎの松 八幡神社境内

明和の大騒動

ある教科書に、「島原の乱以来の大騒動」と言われた伝馬反対一揆が記述されている。明和元年（一七六四）、幕府が中山道沿いの村々に助郷（すけごう）を増やそうとすると、これを黙っていれば、もつと厳しい命令が出されると、農民たちは一斉に蜂起した。武蔵国・下野国・上野国・信濃国の農民二十万は、江戸へ押し寄せる勢いを示した。驚いた幕府は、伊奈郡代を差し向け、要求をすべて受け入れた。勝ち誇った農民は、高利貸しが自分のことばかり考えているからだ、と、二十軒ばかりを打ち壊し、騒ぎはやっと収まった。

宝暦年間（一七五一〜一七六三）、入間川村の綿貫夏右衛門半平・狐塚村の高橋甚左衛門・増田村の小島太夫などの高利貸しが増助郷の資金源となり、中山道筋の間屋（といや）

が増助郷の拡大を働き掛けたことによる。一揆勢は、綿貫家に押し掛け、居宅や土蔵、酒蔵などを打ち壊した。その前に、夏右衛門夫婦は沢の天岑寺（てんしんじ）に逃げ込み、一命を取り留めることができた。そのお礼に「不許葦酒入山門」と刻んだ結界石を寄進している。

慶応二年（一八六六）に発生した「武州世直し一揆」で、綿貫家は再度打ち壊された。「西の鴻池、東の綿貫」と言われた豪商も、幕府が滅びると共に衰退した。文人墨客が訪れた茶室と立ち並ぶ墓石群が当時の栄華を今に伝えている。



結界石 天岑寺境内

利白和尚霊験記

堀兼地区青柳に、二間四方の釈迦堂由来の物語『利白和尚霊験記』が伝わっている。主人公は、延宝六年（一六七八）十一月二十二日、念仏を唱えながら、大往生した。

百年余の歳月が流れ、安永五年（一七七六）青柳村の安左衛門の女房に女の子が生まれたが、母親は間もな

くこの世を去ってしまった。残された子は、六十歳余の老婆の乳房を慕い、昼となく夜となく泣いた。老婆は困り果て、釈迦如来に「乳をお授け下さい」と願を掛けた。

その晩、年老いたお坊さんが夢枕に立ち、「私は利白である。我が力で乳飲み子を助けよう。石碑近くの清い泉の水を乳房に塗り付け、お前も口に含みなさい。そうすれば、娘が育つくらいのお乳が出るであろう」と告げると、すうっと消えた。次の晩、夢枕に現れ、揺り起こされた老婆は乳房が桃のように張り、お乳が滝のように流れ出した。



釈迦堂 堀兼地区青柳

歴史と文学の舞台があなたを待っています。狭山市内を散策してみませんか。

『狭山市史 地誌編』狭山市
『狭山市史 中世編』狭山市

孫との

熱い暑い夏休み 藤橋 敏子

●孫と楽しく



うれしい外出

よんどころない事情で孫（10才）と暮らし始めて半年になります。初めて二人で過ごす、長い夏休みが始まり、どのように過ごしたらいいのかと考えましたが、毎日家にいても、お互いのためになりそうもない。どうするかが、思い浮かばず、孫と相談することになりました。

館や児童館で楽しめるような行事や催しがないか、情報を集めてみました。

●児童館の夏祭り

その中で、児童館で夏祭りが開催されることが分かり、手始めに行ってみることにしました。しかし、開催日には、孫一人で行かなければならなくなり、前もって安全な道順など確認しておき、当日を迎えました。

当日は猛暑で心配しましたが勇んで出かけて行きました。

孫は模擬店などや、イベントなどで友達と楽しんだようです。しかし、帰りが遅く、心配して児童館に問い合わせをし、探してもらったところ、図書室で本に夢中になっていて、帰り時間を忘れてい

たようです。

本好きがあだとなりましたが、迎えに行き、帰り道では、このようなことをすると、他の人にも迷惑がかかるので、必ず連絡はするよう諭しておきました。



水筒持参で完璧

●盆踊り・ふるさと祭り

次の楽しみは、盆踊りとふるさとまつりです。

地域での盆踊りも本番を迎え、練習会にも参加して、楽しみにしていました。東京のおばあちゃんにプレゼントしてもらった新しい浴衣に白足袋、そして下駄をはいて張り切って参加しました。



夏祭り～御神輿の前で



アイス、おいし～い

東京のおばあちゃんといっても血縁があるわけではなく、前から孫を可愛がってくれている人です。高齢のため、盆踊りには来られないので、後日、浴衣姿を見せに行き、大変喜ばれました。



浴衣をプレゼントしてくれた
おばあちゃんと

●七夕祭り

花火を見る予定もあるので、夕方になってから、楽しみにしていた七夕見物に行くことにしました。

良い天気の中、新しくなった駅前から、七夕の飾りつけや、大勢の人並をかき分けながら、いろいろな出店を覗いて楽しみながら、花火の打ち上げ会場へ向いました。

8時頃に花火の打ち上げが始まり、良く見える位置が確保でき、最後まで歓声を上げながら、見る事ができました。

帰りには、出店で金魚すくいをやり、3匹すくえました。この金魚は、今でも我が家の水槽で元気に泳いでいます。

●日帰りのバス旅行

最大の行事。バス旅行です。行き先は、海ほたる経由、鴨川シーワールドです。しかし、約5時間かかったため、滞在時間2時間30分となり、駆け足の見学となりました。

関東近県では、ここでしか見られない、シャチャや、トド・イルカ・アシカなどのショーを見たりして楽しく過ごしました。その後、生まれただけのシャチャとトドの赤ちゃんが、お母さんと可愛い姿を見せてくれました。

昼食休憩後、アイスやポテトを食べました。帰りの時間が迫り、トイレタイムをしっかりと取り、バスに乗り込みました。

帰りは、海ほたるでトイレ休憩



暑い中のひと休み



アシカの曲芸～鴨川シーワールド

後、家路へ急ぎます。途中スカイツリーが見え、感激してシャチャを押ししました。その後は疲れ果て夢の中。孫も同様で、可愛い寝顔を見せて、満足した様子でぐっすりねむっています。忙しかったが楽しい一日でした。



遠くに見えたスカイツリー

●これから

その他、東京の科学館・埼玉小川の自然体験・水泳教室、などと思いついてみると、盛りだくさんの計画でした。ハラハラ、ドキドキの楽しい経験いっぱい夏の休みでした。孫と過ごした事で、初体験も多くあり、自分自身も大いに楽しめました。

これからも、パワーを貰って、楽しさだけではないだろうが、成長を見守りながら、二人で頑張っていけることを願っています。

綾ちゃんよろしくね！

旅のエッセー

富澤 邦子

青春18切符…ローカル鉄道出会い旅

六十代最後のこの夏に、憧れの青春18切符の旅に出た。この切符で旅に出ると、青春が戻ってきそうなく、そんなワクワク感のあるネーミングに、まず魅かれた。

青春18切符の魅力は…

なんといっても、運賃の安さと乗り放題だろう。時間のたっぷりある年金生活者の老春の夫婦旅には、ぴったりだ。

泊まる所も、行き先も決めない旅は、初めてであった。

それだけに、どんな風景が見られるか、どんな人たちに出会えるかが大きな楽しみの、旅の始まりであった。

リュックに時刻表とスケッチブックとカメラを入れ、中央本線に乗り込んだ。

下りの列車は空いていて、4人がけの席に贅沢に座った。

旅の始まりから、車窓には、もくもくと湧く入道雲と青い山並みが、強い日差しの中に見え隠れしていた。

「今日はどこまで行けるかな」と夫。「夕方5時ごろまで、行ける所までどうかしら」と私。



小海線 わくわくエコランド号 小淵沢駅で



ローカル鉄道の各駅停車の旅は、のんびり、ゆっくり癒し旅

わくわくエコランド、わくわくエコランド

この切符は、一枚で当日の0時から24時迄普通車に乗り放題で、5枚の切符で1万1500円である。「いろんなローカル線に乗りたいね」と、急に小淵沢で下車。ホームには、ローカル色豊かな小海線の列車が、前には、青々と連なる八ヶ岳が迫っていた。

一期一会の出会い旅

まず、写真を撮り合い、憧れの駅弁とビールを飲む。発車して、即「カンパニー」。十一時には郷土食豊かな早めの駅弁に、舌鼓を打つ。

ほどなく、同世代の夫婦が隣に座った。「お互いが元気なうちに楽しまないと…毎週のように、ツアーで出かけているよ」と言う。「それが一番」と私達。小海線ならではの、山や川、森や渓谷と話しの間に見る景色に、さらに、旅の話が盛り上がり、あっという間に終点の小淵に着いた。「また、どこかで…」とお互い笑顔で別れる。

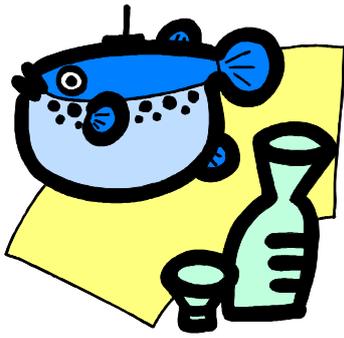


美味しい魚とお酒で…

しなの鉄道で小諸から篠ノ井へそこから、信越本線で直江津へ向かい、今宵の宿は日本海に面した直江津とした。宿は昭和のレトロの雰囲気漂う、寅さんが泊まるような部屋であった。

日本海の魚を食べに入った居酒屋では、「笑点」メンバーの春風亭昇太さんにそっくりな、板前さんと出会う。

「いつも、お客さんに似ていると言われるんです」と、笑顔がさらにそっくり。夫と即席の掛け合いに、他の板前さんやお客さんも加わり、魚と酒が一段とおいしい、新潟県直江津の夜であった。



どこまでも日本海…

2日目は海沿いを走り、どこまでも広がる青い日本海を、ただボーッと眺めていた。隣に座った婦人達は「毎週、列車で長岡に二人で買い物に来て、一日中遊んで帰るの」と仲の良い嫁姑との出会いに、暖かい気持ちになった。

2時間待ちで、長岡に降りた。近代的で開放的な市役所や、整備された明るい街並みに、便利で生活しやすい、地方都市の良さを感じた。

甲子園の高校野球決勝戦を、市役所内の開放的な中庭で見た。立派なシネマ館で観た長岡の花火大会の記録映画は、震災の後だけに、復興を願う長岡市民の心意気を感じられ、思わず涙が出た。

昼食は、看板が出ていた安くて、美味しそうな魚定食にした。刺身、てんぷら、煮魚と、新鮮プリプリの鯛じゅくし、漬物、小鉢とコーヒー付きで780円と看板に偽りなし。大満足のお昼だった。

宿から、だらだら坂を空に向かって歩いて行くと、広い日本海が広がっていた。



落日が 枕にしたる 横雲の

なまめかしけれ 直江津の海

与謝野晶子



青春18切符とは…

- ① 日本全国JR鉄道（普通車）のお得な切符。年齢制限はなく、大人も子供も同一料金です。
- ② 春、夏、冬にJRの駅で購入できます。発売期間と利用期間があります。
- ③ 利用期間を過ぎると、使用不可。払い戻しもできません。
- ④ 5回使用可能な切符で、値段は、1万1500円です。
- ⑤ 1枚の切符は、当日の0時から24時まで乗り放題です。途中下車可能ですが、切符1枚は24時までです。
- ⑥ 急行や特急には乗れませんが、快速や長距離夜行快速（ムーンライト号）は指定席代を払うと乗れます。
- ⑦ 夜行列車は、始発駅を24時間前に出発するものが多く、24時を過ぎて乗れる所まで別料金で行き、24時過ぎの夜行列車に乗ると1枚の切符で可。
- ⑧ 1人で5枚使うのも可。5人で5枚使うのも可。1泊を2人で使い、残り一枚は一人旅も可。詳しくは、JR鉄道の各駅に尋ねてください。

五十の手習いひいふうみい

すだ たまこ



その一 (ひい) カメラ その二 (ふう) ハングル

きっかけは旅行だった。国民休暇村主催の写真講座付き旅行に夫と出かけた。

私が持っていたのはパワーショットというコンパクトデジカメ。夫は張り切って、初心者用の一眼レフのデジカメセットを買って持っていた。

新潟県の妙高国民休暇村に一泊して近くの写真スポットを巡る旅だったが、意外にも調子に乗ってしまったのは私の方だった。いつのまにかカメラは入れ替わり、私の手には一眼レフが。

それ以来、一眼レフは私の旅の友となった。



きっかけは近くにハングル教室があったから。

英語以外の外国語なら何でもよかったのだが、日本語と似てるし、語順も一緒なので、きつと簡単だろうと思ったのが大間違い。母音は10個あるし、子音も日本語にはない発音がいっぱい。自分では正しい発音をしているつもりでも、ししい発音をしているつもりでも、なかなか通じない。

初めて韓国に行った時、「ソウルヨク(ソウル駅)」という言葉が通じず、英語の方が通じたというお粗末なエピソードも。

よく「ヨン様なきっかけですか?」とか、「韓流ドラマがすぎませんか?」と聞かれるが、実は逆で、韓国語の勉強のためにドラマを見ているのである。

その三 (みい)

フェイスブック

きっかけは、娘たちが海外に行っていたこと。

スカイプ(インターネットを通じてする無料電話)でよく通話もしていたが、やっぱりこれが今は面白い。年齢も住んでいる所も関係なくお友達になれるし、自分のアップした記事に「いいね!」してもらった時とか、コメントを書いてもらった時にはちょっと嬉しい。まあいろいろ問題はあがるが、社会とつながっていると感ずることが出来る優れたもののツールだと思う。

そして最近は一・padにはまっている。これがまた使い勝手がよく年々衰えゆく視力を補完するにはまたとないツールである。

やり過ぎて肩こりがひどくなったこともあり、「おかあさん、いいかげんにしたら」と、親子逆転の

図なんてこともある。

我が家ではひそかに「一・pad先生」と呼び、困った時の出番はパソコンを抜いて一番である。

私自身これほどいろんなコミュニケーションツールに夢中になるとは思わなかった。どちらかといえば文系だし、機械は苦手な方である。ウィンドーズが出た当初も(自分の頭を指して)私はここにコンピュータがあるから、などと嘘ぶいていた。そんな私でも手を出せるほど、現代は進化しているのである。

これは幸せなことか? はたまた不幸のはじまりなのか?





2012年10月13日
 SSCC 体育祭の日、世にも珍しい雲があらわれた。その名も「さば雲」という。

フォト日記



By
 TAMAKO



某年某月某日
 都内某所にて

2012年5月20日 金環日食
 光の輪 きらきらゆれて きれいだな



ある日の夕方
 こんなきれいな夕焼けに遭遇することは珍しい。
 椋鳥がねぐらに帰っていく。空を何回も何回も旋
 回した。
 本川越駅前にて

新 旧

動 と 静を 楽しむ

大竹征一郎

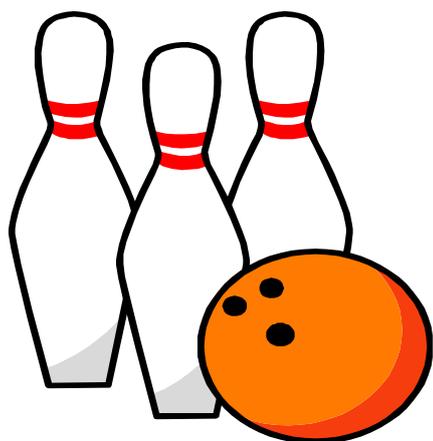
71才で長年勤めた会社を辞めた。嘱託勤務とは言え、自分の時間は思うようには取れないことが退職の理由だ。

趣味や好きな事が多いので、時間を持て余すことはあまりなかった。しかし人とかかわりや、体を動かす事が少なく、運動やコミュニケーションが不足し、会話が少ない事や、体力の衰えをカバーする方法を探していた。

この様子を見ていた隣人に、ゲートボールを勧められたが、興味がわかず思案していた。するとタイミングよく、ボウリングのシニア会員の募集があり、早速応募した。定年後の運動不足の解消を目的にする人が多く、すぐ定員に達し締め切られた。運よく会員になって早3年が経過した。

ボウリングを始めた理由は、この状況に当てはまる内容が多くあったことである。

そして天候に左右されず、好きな時間に誰とでも楽しむ、コミュニケーションが図れるなど、これからの生活を楽しむには最適と判断したからである。



スポーツを自分でやろうなどと考えもしなかったが、身体に負担

はなく、現在まで楽しくプレーをしている。

週一回、定例のリーグ戦があり、ほとんど休まず参加している。

50才から75才までの巾広い年齢層で、参加人員は33名、女の人が約70%を占めている。

当初の目的である体力を維持し、コミュニケーションをもつには、大きな成果があったように思う。

重さ約5kg以上のボウルを投げて、ピンを倒すことだけのスポーツだ。約2時間の運動だが、無理なく体力を使え、良いプレーには、ハイタッチや、拍手で祝福されるので、人とのつながりには非常にいいと言えるだろう。

参加者の年齢を見ると、ボウリングはその人に合った方法で出来て、誰にでも勧められるスポーツである。時間も早朝から深夜迄、その時々で生活スタイルで楽しむ事ができる。近くのボウリング場をのぞいてみてはどうだろうか。

インフォメーション

狭山市内のボウリング場

新狭山グランドボウル

TEL. 04-2952-2111

60才 以上限定 (免許証等必要)

1ゲーム 210円

ただし、水曜日 金曜日 限定
(17時まで)

その他、詳しくは、ホームページへ

ここで頭の体操です。

ボウリングでピンを全部倒す事をストライクと言う。

3回連続させる事を何と言うか。ゴルフで、規定打数より3打少ないことを何と言うだろう。いずれも鳥の名前がついている

道標（みちしるべ）と

未知との遭遇

最新の趣味としてポウリングが定着したが、長く続いているのが読書である。本格的に本を読み始めたのは、約60年前、講談社版の「少年少女世界文学全集」である。全集は友人の家にあり、それを勝手に借りて読んでいた（蛇足、友人とは今も交友あり）

「岩窟王」や「三銃士」に引き込まれ、一喜一憂した感覚は忘れられない。今は、読んだ内容をすぐ忘れてしまいが、その頃読んだ本の内容は、いまでも覚えている。

「岩窟王は」「レ・ミゼラブル」としてミュージカルに映画化され評判を呼んでいる。

会社へ勤め始めると、世界文学全集と日本文学全集を購入できるようになり、楽しみが増え、通勤途中でもよく読んでいた。記憶に残っているのは、ドストエフスキの「罪と罰」パール・バックの

「大地」など、読み応えのある作品が思い出される。

日本文学では、芥川龍之介の「蜘蛛の糸」夏目漱石の「草枕」などが記憶に残っている。優れた文学書が、人生の機微などを詳細に記し、大げさに言えば、生きていくための「みちしるべ」の役目をしてくれた。

優れた文学作品を読むことで、日々の暮らしを楽しんで過ごせ、今考えればいい時代だったと感じている。

今は読書人口も少なく、本の売れ行きも芳しいものではないようだ。古くからの読書好きには残念であるが、拡大して読むことができる、電子図書が出回り、めがねを使用するうつつうしさがなくなり、より多くの人が楽しめるようになったのではないだろうか。

また、目が不自由、読むのが面倒な人たちにも、名作が聴くことができるように、C・D・化もされ便利になった。



推理小説・恋愛小説・歴史小説・ノンフィクションなど、「未知との遭遇」を楽しめる本もある。趣味と実務書などもあり、その時々で自分に合うものを選ぶのもよいだろう。

読書が習慣になり60年以上たった。毎日、本を読むことに抵抗はないが、テレビを見ながらもいいので、少しでも習慣にしたいことを勧めたい。慣れるまでは、図書館で借りれば費用もかからず、色々なジャンルの本が揃っているし、立ち読みもできるので、一度図書館に足を運んでみてはどうだろうか。

インフォメーション

狭山市の図書館

中央図書館

場所 狭山市駅西口 徒歩3分
TEL 04-2954-4646

狭山台図書館

場所 狭山市駅東口 バス 20分
狭山台バス停 徒歩 3分
TEL 04-2958-3801

休館日 原則、月曜日 詳細は、TEL.

ここで頭の体操です

イラストは、作家の芥川龍之介です。この作家にちなんだ文学賞が、「芥川賞」です。ここで同時期に「直木賞」が発表されますが、この作家のフルネームを答えて下さい。



ジャーナル学科 制作作品

温泉や 心もからだも hotする
猫 たまこ

啓蟄や もたげた緑 花を待つ
新ママ

愛し子を 抱っこをすると 泣き勝り
悠・々・子

停まるたび 青春もどるか ローカル線
十八 邦子

達人と おだてられつつ 家事をする
武 そうじ

川柳特集

恋のゆくえ



ジャーナル学科での恋のてほぐきにより、出来なかった事が、だんだん出来るようになった事は、楽しく、嬉しい事でした。

私の老いらくの恋は、決して無理せず、マイペース、ゆっくりにわいわいと、夢中になって、いつかあなたの心を動かしてみたい。

富澤 邦子

この一年で、いろいろな事を知り、有意義な時間を過ごさせてもらい、本当に好きになりました。しかし、恋に発展するには、時間を掛けて、ゆっくりに熟成させたい。このまま続けるのではなく、離れた所から見るといいのかなど、考えている。

大竹征一郎

第二の故郷・狭山市内を散策するのが、大好きだ。夕日が大空を朱鷲色に染め上げ、清らかな陽だまりの中、雑木の小道を散歩した。すると路傍の石仏がにっこり笑いかけた。春がそこまで近付いている。四季を通して武蔵野ならではの自然と歴史を楽しみたい。

権田 恒夫

ジャーナル学科で芽生えた恋はいついどこへ向かうのでしょうか。しばらくはこちよいい風に乗って風に吹かれるままただよってみましょう。そう、あのポップ・ティランの『風に吹かれて』をくちさみながら すだたまい♪その答えは風のなかさ。風が知ってるだけさ。 忌野清志郎訳詞

最近にない緊張感、ドキドキ、恋をしているのかしら？。新しい出会いのときめきをじっくり味わい、まじまじしているうちに、終着駅が近づいてきたようだ。何やら寂しくなってきた。

藤橋 敏子

《広告》

一獲千金旅のご案内

大間に行って
まぐろを釣ろう!

申し込みは・USO1234. Jarnal まで



ハッピーライフ

今を楽しむ

発行日 2013年 03年 18日
発行 狭山シニア・コミュニティ・カレッジ (SSCC)
ジャーナル学科10期生1班
大竹征一郎 権田恒夫 富澤邦子
須田みどり 藤橋敏子

指導講師 澤野久美子

SSCC事務局 〒350-1380 埼玉県狭山市入間川
1-23-5
狭山市教育委員会生涯学習部社会教育課内
電話 04(2953)1111(内線5673)